

75. ^{99m}Tc-H.S.A. 使用による RI アンジオグラフィー並びにプールのスキュンで診断しえた左心房腫瘍の一症例

東京大学 放射線科

宮前 達也 百瀬 郁旻 亘理 勉
三井記念病院 循環器センター
古田 昭一 町井 潔 尾本 良三
古池 延好 横手 裕二 古田 直樹

1958年 Rejoli らによって始められた RI プールスキュンは心のう液貯留の診断、縦隔腫瘍の鑑別診断並びに腹部大動脈瘤の診断に応用されてきた。しかし、心内腔腫瘍の診断に応用され有用であったのは文献上、1967年 Bonte らのプールスキュンによる 1 例報告のみである。

さて、われわれも心内腔系瘍の診断に RI アンジオグラフィーとプールスキュニングが有用であった症例を経験したので報告する。

〔方法〕 装置…… Nuclear chicago 社製シンチカメラ Pho/Gamma III 同社製 3 インチクリスタルスキュナー 使用 RI …… ^{99m}Tc-H.S.A. 8 mCi/4ml

患者は第 1 斜位でシンチカメラの検出器はできるだけ密着させた。肘静脈より ^{99m}Tc-H.S.A. をワンショットで注入直後から 3 秒間隔でポラロイド撮影 8 枚、同時にタイムラップカメラでは秒間隔で撮影した。シンチカメラによるハートプールの撮影後、通常のスキュナーで背臥位スキュニングを行なった。

〔結果および検討〕 結果は通常の造影剤使用によるアンジオグラフィー並びに手術所見と対比し検討する。特にシンチカメラによる描出能を通常スキュナーによる描出能についても検討を加える。

76. 大動脈炎症候群などの疾患における肺血流スキュン

金沢大学医学部付属病院 核医学診療科

中川 馨 久田 欣一

従来肺スキュンは胸部レ線像に異常所見がみられたときに、その部の肺動脈血流に異常が無いかどうかについて調べる手段として用いられてきた傾向がある。

しかし近年研究が進むにつれて肺栓塞以外の疾患でも（例えば、喘息、気管支拡張症、サルコイドシス、肺癌の一部のもの）、病変の程度の差はあれ、肺動脈血流の変化があると考えられる疾患には、その病変の程度、経過等を見るのに有効な診断法と考えられはじめています。

今回私達は、胸部レ線像では著明な異常所見がみられ

ないのに、肺スキュンを施行したら相当の異常所見がみられた大動脈炎症候群、その他疾患の例を紹介する。

大動脈炎症候群は大動脈と大動脈に近い基幹動脈の特殊炎症により発現する疾患であるが、本症に肺動脈病変の存在することは太田の剖検例にも明白であり、われわれは 7 例の症例に対して肺スキュンを施行した所、肺動脈病変の存在を推測させる所見がえられたので報告する。肺スキュン所見を要約すると、1) 局在性肺動脈の狭窄または閉塞等の病変によると思われる著明な RI の欠損を示す“cold zone”の存在、2) 著明な“cold zone”の存在はないが、一側肺（または両側）における RI 分布の散発性、局所性不均等、3) 屈曲した大動脈による肺実質の圧迫のためと考えられる。軽度ではあるが一側性の肺動脈血流量の低下、であった。

私達は今後の肺スキュンの検査対象を胸部レ線像に著明な異常がなくても、肺血管病変の存在が考えられる疾患（例えば、喘息、大動脈炎症候群、S.L.E., , 結節性動脈炎、Wegeener Granulomatosis, sarcoidosis 等）にも行なうべきことを強調し、その症例を呈示したい。

77. 大動脈炎症候群における肺血流スキュン所見について（第 2 報）

東京大学 第 2 内科

毛利 昌史 森成 元 飯尾 正宏
小池 繁夫 伊藤 巖

われわれは第 9 回核医学会総会において大動脈炎症候群 21 例の肺血流スキュン所見について発表したが、今回は新たに 6 例を追加し症例数を 27 例とし本症候群に見られる肺スキュン所見を中心に検討を加えた。

〔対象および方法〕 対象は臨床症状、検査所見、および大動脈撮影により本症と診断された症例で、女子 25 例、男子 2 例である。¹³¹I-MAA は全例臥位で注入しそのままの姿勢で約 3 分後に肺スキュンを行なった。スキュンの判定には上肺野、中肺野のドットカウント数の右・左比を使用し、この値が上肺野で $0.82 \leq R/L \leq 1.15$ 、中肺野で $0.92 \leq R/L \leq 1.30$ の範囲内の場合を正常と判定した。なおこの正常範囲は心肺疾患のない正常対照群 17 例から求めた右・左カウント比の 99.9% 信頼区間である。

〔結果〕 27 例中、肺スキュンは 6 例で正常、21 例で異常であった。その内訳は、右上肺野異常 6 例、左上肺野異常 2 例、左中肺野異常 3 例、右上、中肺野異常 4 例、左上、中肺野異常 5 例、左上、右中肺野異常 1 例であった。